

緑の風 NEWS

JR東労組

NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2026年 2月 3日 №.62

「第34回情報コンクール」最優秀機関研修

1月28~29日、「第34回情報コンクール」最優秀賞受賞機関（5機関）と共に、JR西労の安全のたたかいを学ぶ研修を開催しました。

1日目は、JR西労の小川副委員長、幸書記長から、

懲罰的勤務教育を許さないたたかい、成果主義型の人事・賃金制度が導入されたJR西日本の変化、JR福知山線脱線事故以降のたたかいを学び、意見交換しました。

当時のJR西日本会社では、信賞必罰によって安全を確保できるとの考え方から「ハイビームにすべきところをロービームにしていた」などの些細な理由で懲罰的な勤務教育が行われました。そのような背後要因がJR福知山線脱線事故につながったことや、職場で苦しむ仲間に寄り添うことの大切さ、主戦場は「職場」であり、全組合員にこだわってたたかうことの大切さを学びました。

イエスマンばかりの労使癒着では取り返しのつかない事態になること、「命」を最大の価値基軸に安全風土再確立を行う必要性を再認識しました。

2日目は、事故現場で献花・黙祷を捧げ、改めて安全第一の鉄道をつくる決意をしました。現場の「祈りの杜」では、当時の新聞記事や写真、ご遺族の手紙、来館者の声などに触れ、二度と同じ過ちを繰り返してはならないと強く感じました。

研修を通じて、参加者からは「東もいつ重大事故が発生してもおかしくない」「安全はたたかい取るもの」等の感想が出されました。今後も職場での議論とタイムリーな情宣活動を通じて、職場から組織強化・拡大につなげることを確認し、2日間を修了しました！



職場からのたたかいで安全最優先の企業風土をつくり出そう！